

# ホクコーダイロンゾル

■種類名：DCMU水和剤  
 ■有効成分：DCMU ..... 50.0%  
 ■PRTR法指定物質：DCMU [第1種] ..... 50.0%

■登録番号：第22908号  
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)  
 ■登録初年：2011.03.16  
 ■性状：白色水和性粘稠懸濁液体  
 ■有効年限：4年  
 ■包装：500ml x 20本

## 【特長】

- 1成分で、一年生のイネ科雑草および広葉雑草に高い効果を示す。
- 雑草発生前～雑草発生始期の処理により、高い効果を示す。
- ゾル化により、薬液の調製が容易となり、除草効果が向上した。

## 【適用内容】(2020年4月8日現在)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10aあたりの使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数	
				薬量(mL)	希釈水量				
ばれいしょ	—	一年生雑草	植付後萌芽前 (雑草発生前～始期)	100～ 200	100 ℓ	1回	土壌散布	1回	
やまのいも			植付後萌芽前 (雑草発生前～始期(イネ科雑草3葉期まで))				雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	2回以内 (萌芽前は 1回以内、 生育期は 1回以内)	
			生育期 (畦間処理:雑草生育期) ただし、収穫 60日前まで						
だいず			は種後出芽前 (雑草発生前)	150～ 200			土壌散布	2回以内 (出芽前は 1回以内、 生育期は 1回以内)	
			は種後出芽前 (雑草発生始期)	100～ 200					雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布
			生育期 (畦間・株間処理:本葉5 葉期以降、雑草生育期) ただし、収穫 30日前まで						
あずき			は種後出芽前 (雑草発生前)	150～ 200			土壌散布	雑草茎葉散布 又は 全面土壌散布	
			生育期 (畦間処理:雑草生育期) ただし、収穫 30日前まで	100～ 200					
さとうきび (春植又は夏植)			植付後萌芽前 雑草発生前	160～ 240			土壌散布	2回以内 (萌芽前は 1回以内、 生育期は 1回以内)	
			植付後萌芽前 雑草発生始期	100～ 150					
さとうきび (株出)			生育期 (雑草生育期) ただし、収穫 60日前まで	100～ 150			雑草茎葉散布及 又は 全面土壌散布	2回以内 (萌芽前は 1回以内、 生育期は 1回以内)	
			萌芽前(雑草発生始期)	100～ 150					
	萌芽前(雑草発生前)	160～ 200							

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	10aあたりの使用量		本剤の使用回数	使用方法	DCMUを含む農薬の総使用回数		
				薬量(mL)	希釈水量					
飼料用さとうきび (春植又は夏植)	—	一年生雑草 多年生広葉雑草	植付後萌芽前 雑草発生前	160~ 240	100 ℓ	1回	土壌散布	1回		
			植付後萌芽前 雑草発生始期	100~ 150						
生育期 (雑草生育期) ただし、収穫 75日前まで			100~ 240	100 ~ 200 ℓ	雑草茎葉 散布 又は 全面土壌 散布					
萌芽前(雑草発生始期)			100~ 150							
萌芽前(雑草発生前)			160~ 200	100 ℓ	土壌散布					
雑草発生前 ただし、収穫 60日前まで		200~ 400								
かんきつ ぶどう		一年生雑草	雑草発生前 ただし、収穫 60日前まで	200~ 400	100 ~ 200 ℓ		2回 以内		雑草茎葉 散布及び 全面散布 又は 全面土壌 散布	2回以内
もも			雑草発生前 ただし、収穫 90日前まで							
パイナップル			植付直後(雑草発生前)	150~ 200						
食用亜麻		水田 畦畔	一年生雑草	生育期 (8葉展開期以降) (雑草発生始期) ただし、収穫 60日前まで	100		100 ℓ		全面土壌 散布	2回以内 (萌芽前は 1回以内、 生育期は 1回以内)
あま	生育期 (8葉展開期以降) (雑草発生始期)			100~ 200						
うこん	植付後萌芽前 (雑草発生始期)		100~ 200	雑草発生前~生育初期	200~ 250	1回	雑草茎葉 散布 又は 全面土壌 散布	1回		
	生育期 (畦間処理:雑草発生始 期)ただし、収穫75日前 まで									
水田作物 (水田畦畔)	公園、庭園、 堤とう、駐車 場、道路、運 動場、宅地、 のり面、鉄道 等	コケ類	雑草発生前~生育初期	1000 ~ 2000	3回 以内	植栽地を除 く樹木等の 周辺地に雑 草茎葉散布 又は全面土 壌散布	3回以内			
樹木等			コケ類生育期	500~ 1000						

【効果・薬害等の注意】

- 本剤を所定量の水で希釈し、時々攪拌しながら均一に散布すること。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさけること。
- だいたいに使用する場合、以下のことに注意すること。
  - ◆ は種時には十分な種深度を確保し、浅植えとならないように注意すること。
  - ◆ 畦間・株間処理に使用する場合、専用ノズルを使用するとともに、噴口はできるだけ低くして本葉にかからないようにすること。
  - ◆ は種後出芽前に薬剤散布をする場合、出芽直前に降雨が予想される場合には薬剤散布を行わない。

- あずきに使用する場合、以下のことに注意すること。
  - ◆ は種時には土壌を細かく砕いて、均一厚めに十分な覆土を行うとともに、は種深度を確保し、浅植えとならないように注意すること。
  - ◆ 畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して作物にかからないようにすること。
  - ◆ は種後出芽前に薬剤散布をする場合、出芽直前に降雨が予想される場合には薬剤散布を行わない。
- さとうきび及び飼料用さとうきびの新植後、分けつが始まる頃に薬剤がかかると薬害が発生することがあるので、さとうきび及び飼料用さとうきびにかからないように注意して散布すること。
- やまのいもの畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して、作物にかからないようにすること。
- 食用亜麻、あまにを使用する際には、生育の進んだ雑草には効果が劣ることがあるので、中耕などの機械除草との併用により効果の安定を図る。
- うこんに使用する場合、以下のことに注意すること。
  - ◆ 植付時には土壌を細かく砕いて均一厚めに十分な覆土を行うとともに、植付深度を確保し、浅植えとならないように注意すること。
  - ◆ 畦間処理に使用する場合、専用ノズルを使用して作物にかからないようにすること。
- 砂質で水はけの良い場所や雨の多い時期には、薬剤が土中深く浸透して有用植物に薬害が生じるおそれがあるので注意すること。
- 散布薬液の飛散、あるいは本剤流出によって有用植物に薬害が生じることのないように十分注意して散布すること。
- 樹木等有用植物の根が分布していると思われる所では使用をさけること。
- 水田畔の雑草防除を目的として使用する場合、雑草が枯れ残る場合もあるが、抑草効果は持続するので、追加散布や繰り返し散布をしないこと。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
  - ◆ 水源池、養殖池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。
  - ◆ 散布薬液の飛散によって自動車やカラートタンの塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 本剤の散布適期は雑草発生前から生育期(草丈 15cm 以下)であり、生育の進んだ雑草には効果が劣るので、時期を失しないように散布すること。

#### 【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。 眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- ❖ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 使用残りの薬液は必ず安全な場所に保管すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。  
使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきることを。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。